



沢島

ひでたか通信 Vol.21

区議会公明党が提案した「シブヤ母子健康ノート」がスタート!!

災害時要配慮者対策を提案! 単身高齢者の住宅確保策も提案!

第3回定例会・区議会公明党の代表質問より

令和元年9月10日(趣意)

防 災

災害時要配慮者対策について

質問 配慮が必要な高齢者・障がい者等が避難をする二次避難所の数は、充分ではないと察するところですが、自宅で暮らしても、支援が必要な要配慮者は、数多くいらっしゃると思います。

そこで、自宅避難の要配慮者への支援は、区内の有料老人ホーム等との協力体制を築いてはどうかと考えます。また、支援は、年齢で分けるのではなく、配慮の特性に応じた支援方法を基本に考えて頂けたらと思います。

答弁 (区長) 二次避難所については、宿泊が可能な通所施設や民間施設との協定による拡充を図るとともに、発災時にどのような支援が可能かを把握し、必要としている配慮に応じた支援が受けられるよう充実を図ってまいります。

妊産婦・乳幼児への支援体制について

質問 区議会公明党は、平成28年の第4回定例会の代表質問で、渋

谷区においても母子救護所の設置をすべきであると提案させて頂きました。

文京区では、区内の四つ女子大学と妊産婦・乳児救護所の提供に関する災害協定を結びました。また、医療・福祉系をもつ大学では、実習設備としてベッドや入浴施設も兼ね備えており、支援ボランティアとして学生の協力も期待できるかも知れません。

女子大学だけではなく、渋谷区子育てネウボラ施設、幡ヶ谷・恵比寿保健相談所も視野に入れても良いのではないかと考えます。

答弁 (区長) 質問のとおり、妊産婦や乳幼児を抱えた人には、乳児の泣き声や授乳時のプライバシーに配慮した環境が求められます。

母子救護所の確保については、訪問による各種支援として、保健師による衛生指導のほか、妊産婦支援について、渋谷区助産師協会との連携による相談支援の仕組みを整備している状況にあり、

区内の女子大学や、渋谷区子育てネウボラ・恵比寿保健相談所を含めて検討してまいります。



「365日防災の街渋谷」について

質問 有事の際には、若い世代のパワー程、有難いものはありません。聖心女子大学や東海大学の学生さんは、地域の夏祭りや防災訓練にも参加をして下さっていると伺いました。

そこで、S-I-S-A-Pを結んでいく大学の学生さんが、町会や地域の行事や防災訓練等に参加しやすい仕組みを構築していくことを提案します。

渋谷区ならではの多言語対応等の課題も含め、大学や学生さんが持ち得る知見やスキルを防災の観点からも最大限に発揮して頂けるよう願っています。

答弁 (区長) 若い方々に、地域の防災の戦力となってももらうために、地域の訓練等に参加するなど大学との連携の仕組みを強化していくことは重要と考えます。

大学生のボランティア活動と行政がもっと連携を密にし、有事の際に協力を頂けるような仕組みづくりを推進してまいります。



教 育

「いじめ防止条例」制定に向けて

質問 平成29年第4回定例会に於いて、「いじめを許さない街。渋谷区」の条例の制定を提案させて頂いた際、区内中学校の代表者、生徒会による「いじめゼロ中学生サミット」を開催して、学校ごとの取り組みやアイデアを共有するなど、優秀な児童・生徒の力を引き出していただけらどうかと提案をいたしました。

実施に向けての見解を改めてお示しください。
また、学校ごとにアンケートを実施する場合には、その項目等も子ども達を中心となって作成することも併せて提案をさせて頂きます。

答弁 (教育長) 昨年は、区立中学校の生徒会長役員が一堂に会して、「より良い学校にするために」というテーマで、SNSによる誹謗中傷を受けた生徒の経験から、トラブル防止に向けた取り組みを紹介し、いじめについて深く考える機会となりました。
今年12月の、実施に向けて支援してまいります。

また、アンケート項目を子ども達を中心となって作成することについては、有効な一つの手立てとなることから、学校に働きかけてまいります。

福祉

医療と介護の連携について

質問 超高齢社会に於いて、医療と介護の連携については、定例会の度に、会派で質問を重ねてきました。地域包括ケアシステムの深化には、多職種連携は、肝となります。

私ども公明党の提案で、スタートをした「渋谷区在宅医療・介護連携推進会議」の進捗を教えてください。

答弁（区長）今年度は、従来のメンバーである三師会のほか、ケアマネ、訪問看護事業者、東京都栄養士会を加え、在宅生活でのサポート体制について議論を行っています。来年度、窓口機能がスムーズに移行できるよう、会議での議論を重ねてまいります。

認知症支援について

質問 本年、初の試みとなりました「認知症なっても展」の内容について提案させて頂きます。

1点目は、福祉人材の確保・育成・定着の視点を入れて、福祉の仕事の魅力が伝わるような企画も盛り込んで頂くことです。

2点目は、認知症の方への防災・避難といった視点での講演会等を実施することです。

答弁（区長）大きな課題となって

いる福祉人材の確保の取り組みを絡めるとともに、議員ご提案の防災に関する講演についても、実施に向けた検討を行い、多くの区民にご参会いただけたらという実施したいと思っております。

住宅政策について

質問 高齢者の単身世帯や障がい者の方は、家賃滞納や孤独死等への不安から、オーナーの多くが入居に拒否感を抱いており、住宅確保に支障が生じているケースが見受けられます。

今回提案をさせて頂きたいのは、住まいに関する3つのサービスを1つにパッケージして提供し、入居者自身の安心とともに、家主や管理事業者が単身高齢者等に安心して貸すことができる制度の創設を提案します。

具体的には、①見守りサービス②亡くなった際の葬儀対応・費用保障③亡くなった際の片づけ・費用保障です。

孤独死は、後期高齢者が圧倒的に多いと思っておりますが、60代が最多。そのうち男性が8割。また、50代男性は、80代よりも比率が高い事が分かりました。

これらを鑑み、対象は、高齢者に絞らず、単身世帯と設定し、登録料等の助成も検討して頂きたいと思っております。「渋谷区版住宅セーフティネット制度」の創設について、ご所見を伺います。

答弁（区長）区内で活動できる居

住支援法人や不動産事業者と協力し、渋谷区版の住宅セーフティネットを構築したいと考えています。

ご提案いただいた助成制度や対象につきまして、障がい者等を含む住宅確保要配慮者の実態調査を行ったうえで、最も効果的な方法を検討してまいります。

子育て支援

「母子健康手帳」について

質問 妊娠中や子育て中の健康に関するスケジュール管理ができる電子母子健康サービス「シブヤ母子健康ノート」が開始されました。

私ども公明党は、会派で勉強会を重ね、提案等をして参りました。多くの方々に喜んで頂けると期待しています。

この「シブヤ母子健康ノート」事業の詳細を教えてください。

答弁（区長 議員）ご提案の電子母子健康「シブヤ母子健康ノート」については、渋谷区が全国に先駆けてLINEと連携させた事業として、9月2日から開始いたしました。

主な機能としては、妊産婦が検診結果を記録することで、グラフ化し体調管理ができることや、子供の成長記録を写真とともに家族のスマートフォンで共有・閲覧できます。

さらに、自動で予防接種スケジュールを計算し、通知されるなど、デジタルならではの機能を活かして母子健康手帳を補完するものとなっております。

子どもの権利条約について

質問 2点目の提案は「母子健康手帳」に子どもの権利条約を掲載して頂くことです。

是非、「子どもの権利条約」を母子健康手帳に掲載して頂き、父母などが、子どもの検診や予防接種の順番を待っている時間等に、目にとめてもらえるように、まずは、「シブヤ母子健康ノート」に掲載して頂くことを提案します。今後は、通常の「母子健康手帳」への掲載も検討をお願いいたします。

答弁（区長）ご指摘の電子母子健康への掲載については、「渋谷母子健康ノート」の子育て情報欄に、ユニセフの許諾を得たうえで、「子どもの権利条約」サイトへのリンクを張ることといたします。また、母子健康手帳への掲載につきましては、今後検討してまいります。

unicef 

「子どもの権利条約」全文はこちらからご覧いただけます。

↓



渋谷区政へのご意見、ご要望など、なんでもお気軽にご相談ください!!

さわしま 英隆
渋谷区議会議員 **沢島ひでたか**

〒150-8010 渋谷区渋谷区宇田川町1-1 TEL. 03-3463-1036
渋谷区役所内渋谷区議会公明党控室 FAX. 03-5458-4962



寄せられたご相談に
全力で対応致します!!